

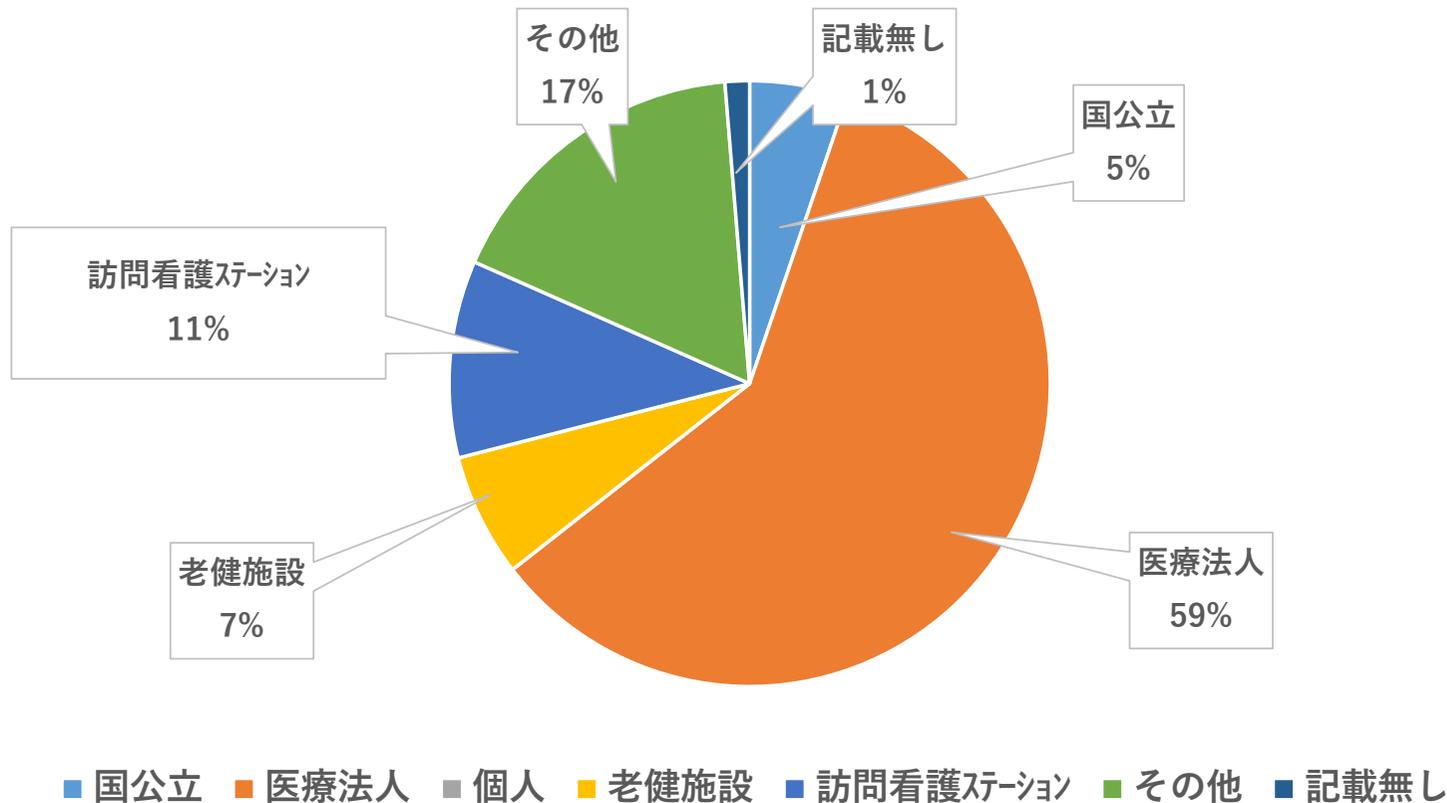
# 看護職の労働環境・業務改善等 に関するアンケート調査結果

鹿児島県看護連盟  
政策委員会  
令和5年11月25日



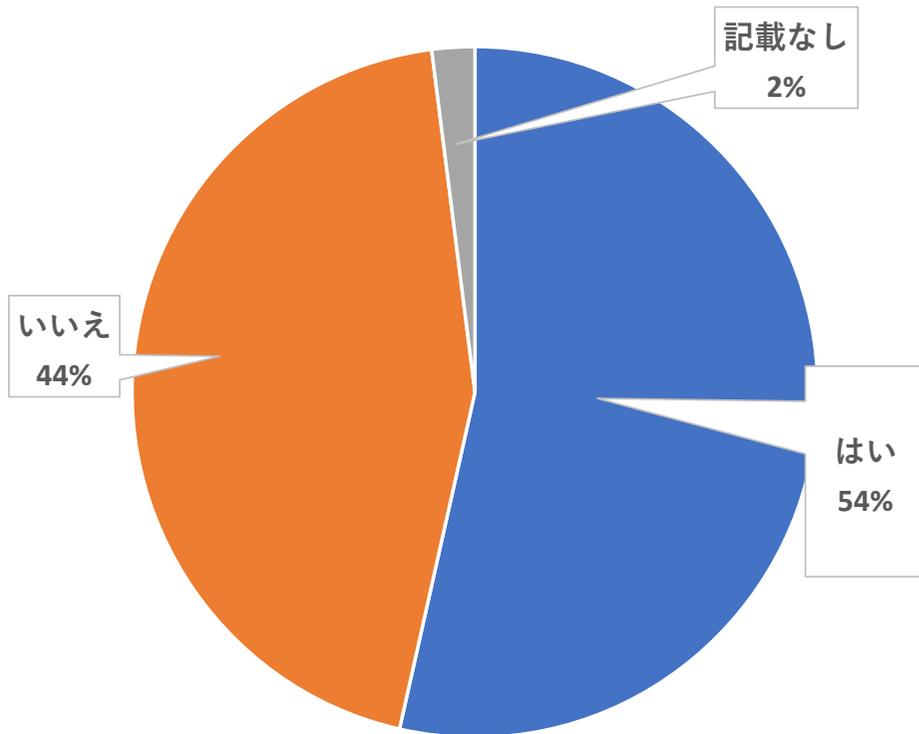
1. 調査対象：鹿児島県内の医療機関
2. 調査方法：無記名・自由記載
3. 調査期間：令和5年10月2日～10月27日
4. 配布数：375枚      回収数76枚      回収率20.3%

## 設置 主体



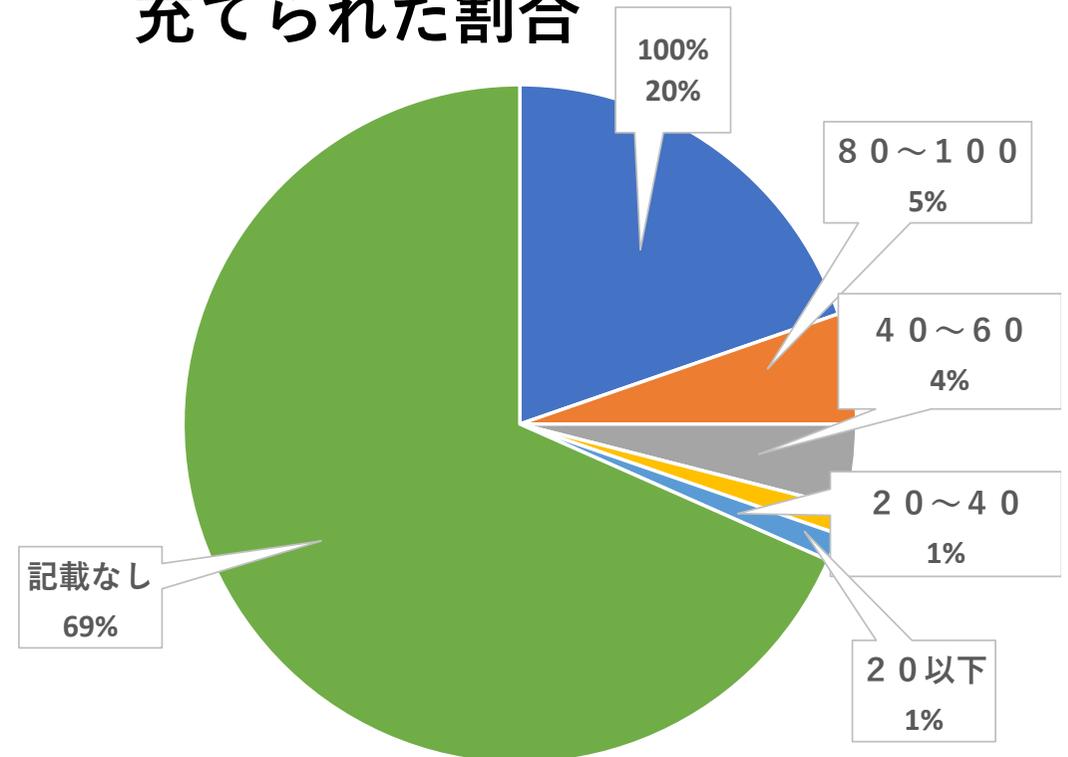
## 【看護師の処遇について】

### Q 1. 対象病院でしたか



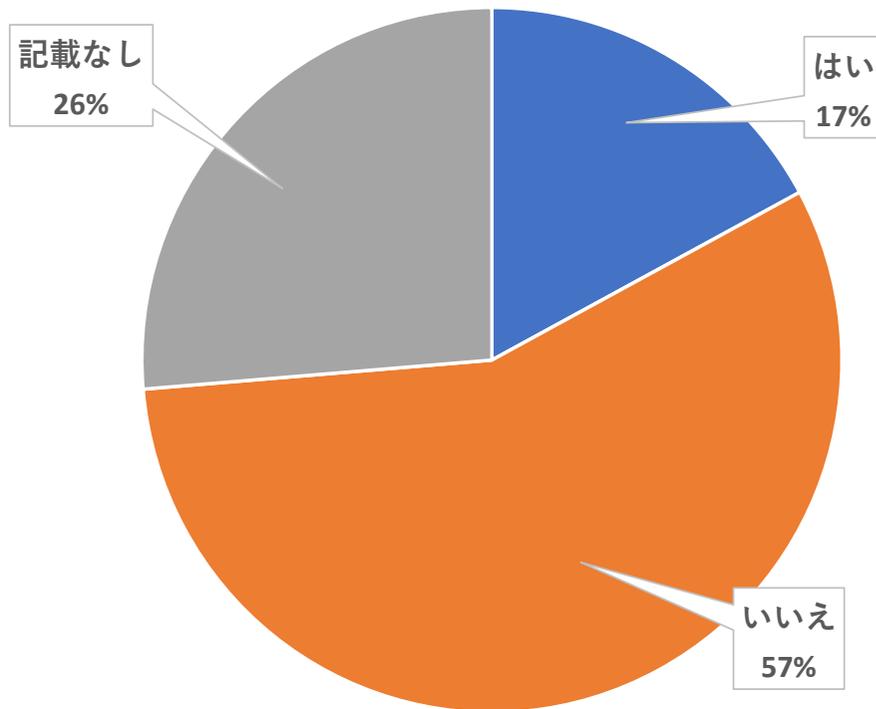
### 1. 看護職員処遇改善評価料について

### Q 2. 看護職員の処遇改善に 充てられた割合



### Q 3. 国家公務員医療職俸給表（三）の改定に伴い、看護職の賃金の見直しはされましたか。

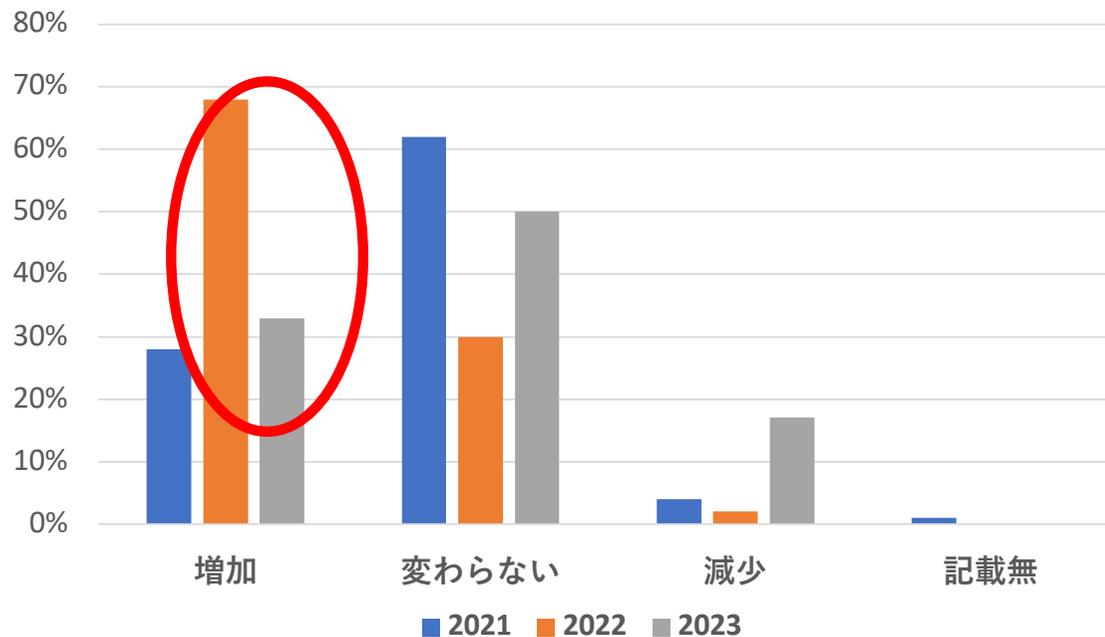
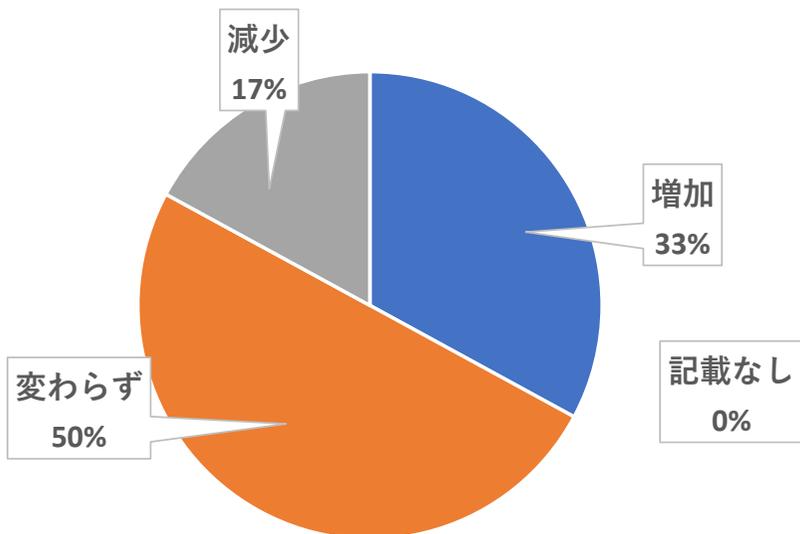
#### 意見



- ・ 管理的立場、高度な知識経験を有する看護師における役職手当・昇給制度がすでにある。
- ・ 病院独自の資格手当が看護師のみ増額されている。
- ・ 病院側に話をしたが、自施設の賃金制度に基づいているため検討もされなかった。  
（数施設）
- ・ 検討は行われたが見直しされていない
- ・ 2024年4月に見直し予定。
- ・ 対象施設ではない。
- ・ 改定を知らなかった。

## 【労働環境について】

### Q 4. 超過勤務は増加していますか

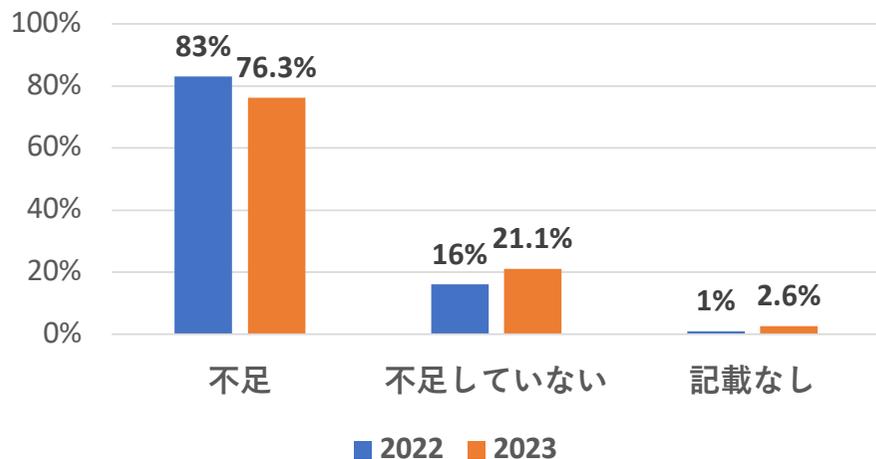


## 意見

33%増加と回答しているが、昨年度と比較すると増加は増えていない。変わらないという意見が多く、昨年度同様の超過勤務が発生していることが伺える。

- ・ 人員不足に加え、高齢者や重症度の高い患者が多くなっている。
- ・ コロナやインフルエンザ患者対応には時間を要する。
- ・ 病院の稼働率をあげるために患者数が増加している。
- ・ 学生が多様化しており、教員が学生にかかる時間が増加している。
- ・ 人員不足でも業務改善に取り組んでいるので、増えていない。 など

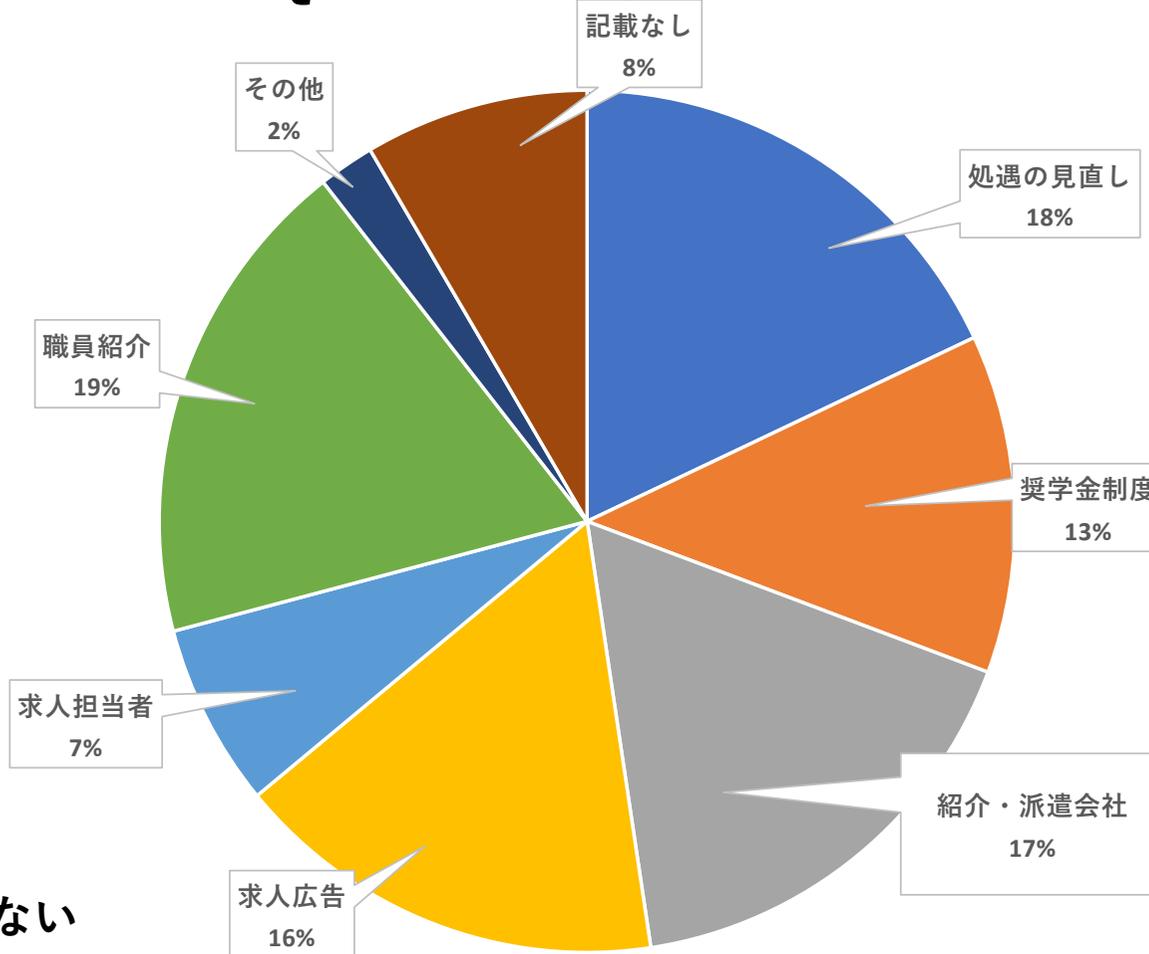
## Q5. 看護職員に不足感を感じますか



### 意見

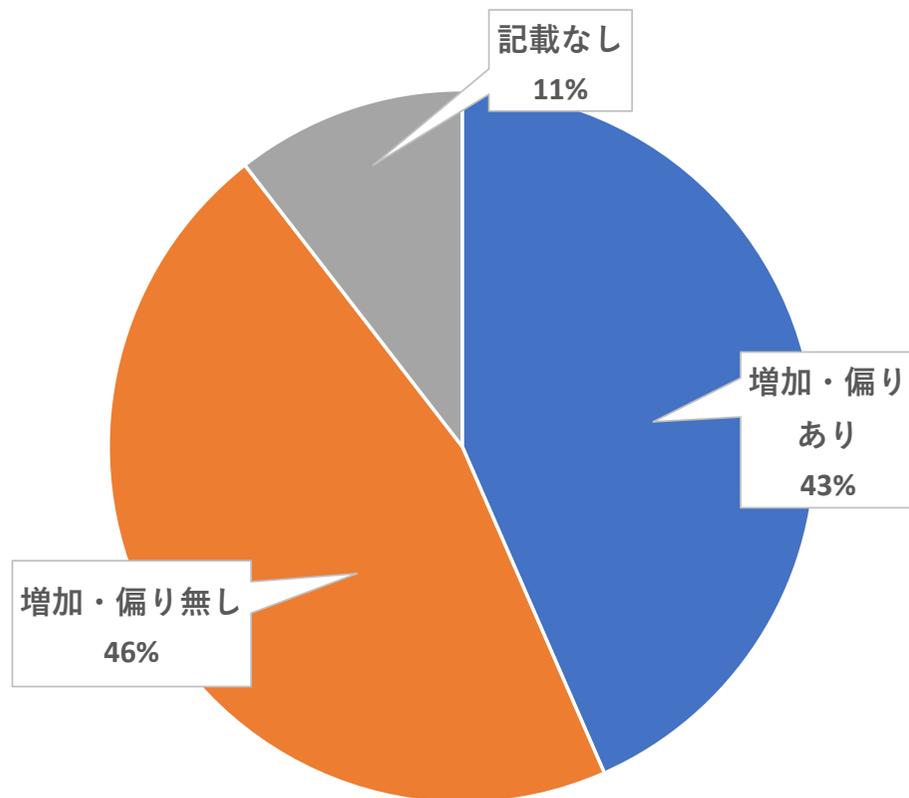
- ・ コロナ陽性や濃厚接触で急な休みとなるケースが減らない
- ・ 採用しても「忙しい」という理由で退職が多い。募集してもこない
- ・ 施設基準はぎりぎり満たしても、まかなえない
- ・ 管理、研修、委員会活動等が十分にできない
- ・ 看護補助者の不足も大きい
- ・ 業務過多で体調を崩す職員も多く、悪循環

## Q6. 人員確保の工夫について



## Q5. 1人あたりに夜勤回数が増加した、または偏りがありますか。

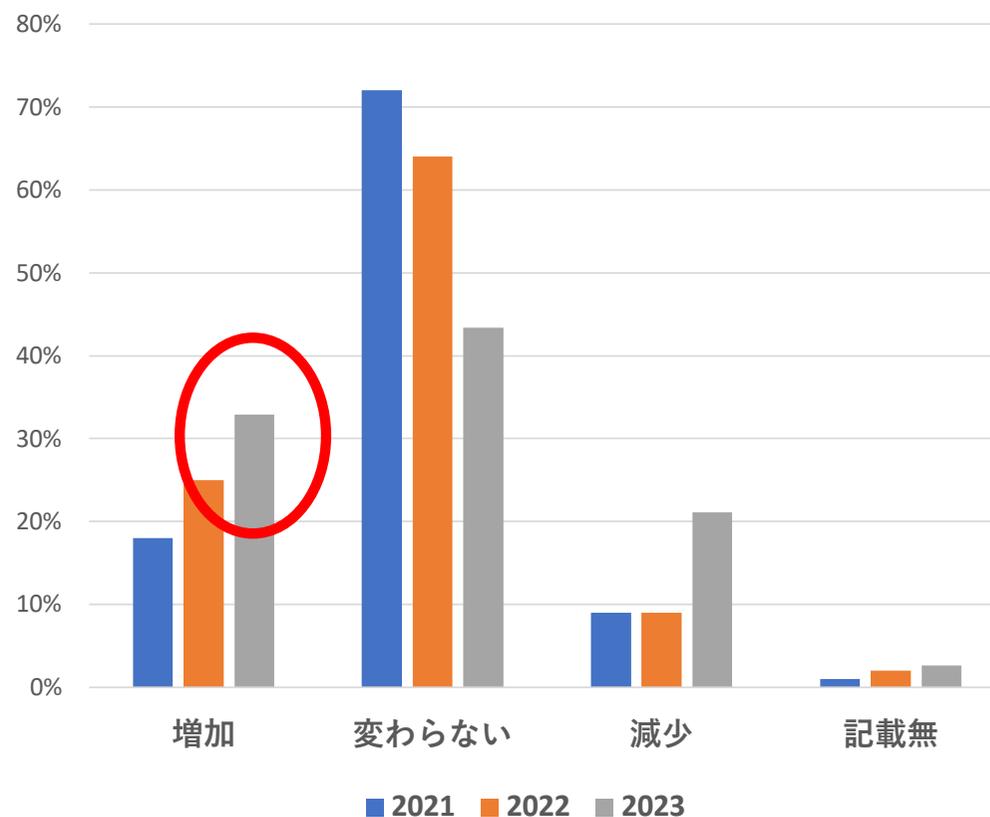
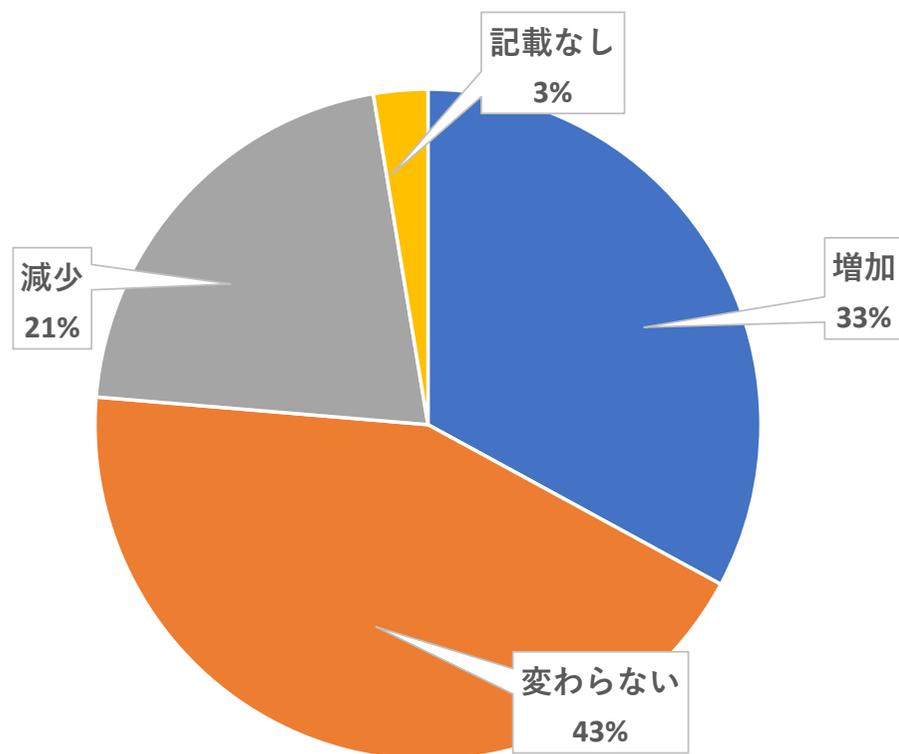
### 意見



- ・「子育てや介護等で夜勤ができない」「条件あり」の職員の増加
- ・病欠（メンタルも含め）や、定年後の職員が増えて夜勤ができない
- ・育児中は回数が少ないために、偏りがある。
- ・新人の成長がゆっくりであり、夜勤の独り立ちができないため、夜勤ができる職員の回数が多くなる
- ・人員不足で1人当たりの夜勤回数が多くなる
- ・子育て中や妊婦は概ね夜勤が免除されている。

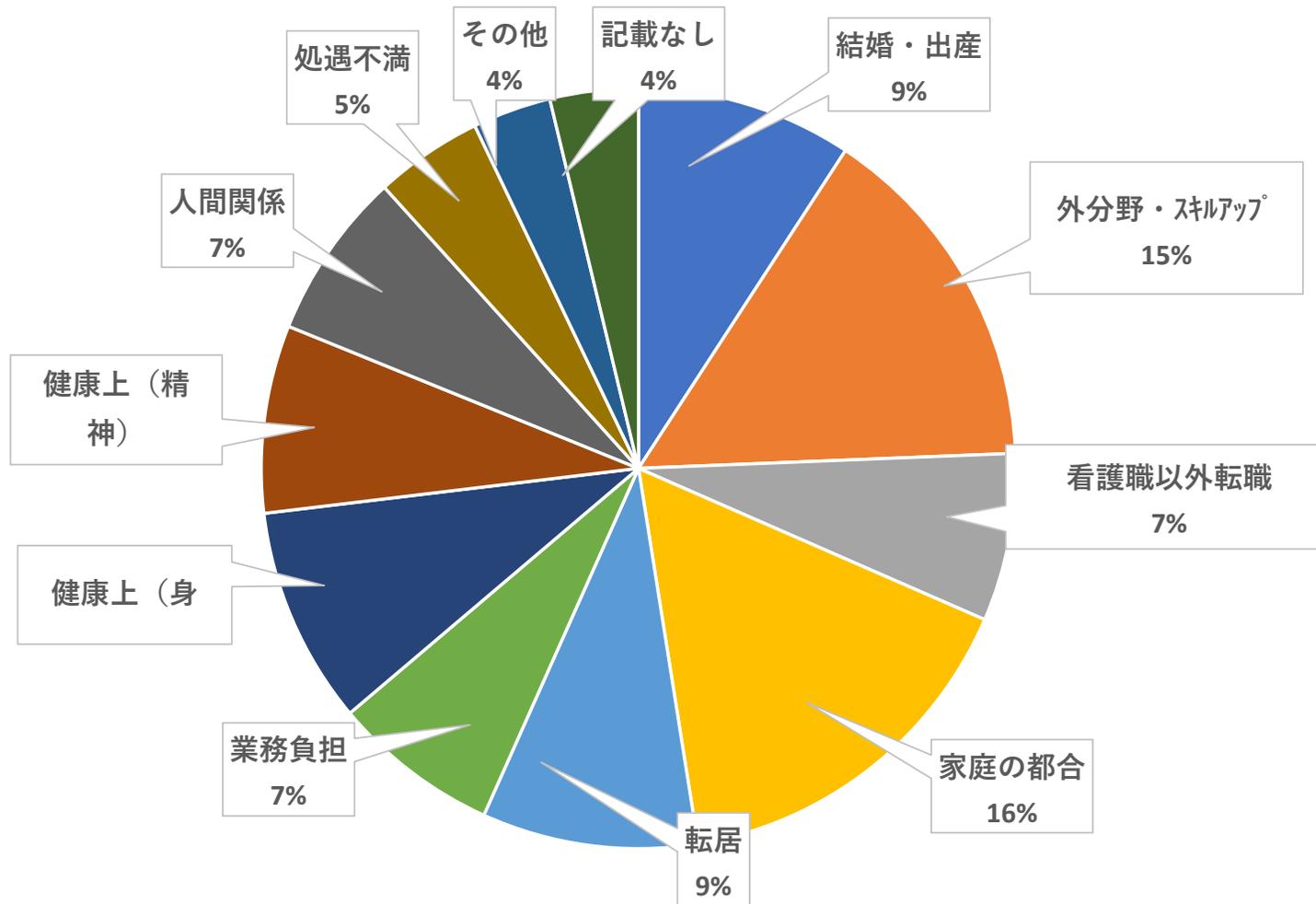
## 【離職について】

## Q7. 離職率の前年度との比較について



離職率は全国的に高くなってきているが、今回の調査でも、33%が増加したと回答しており、過去3年で最も多くなっている。

## Q7. 離職率の理由について



1位：看護職他分野でのスキルアップ

2位：家庭の都合  
(子育てや介護の両立など)

3位：転居

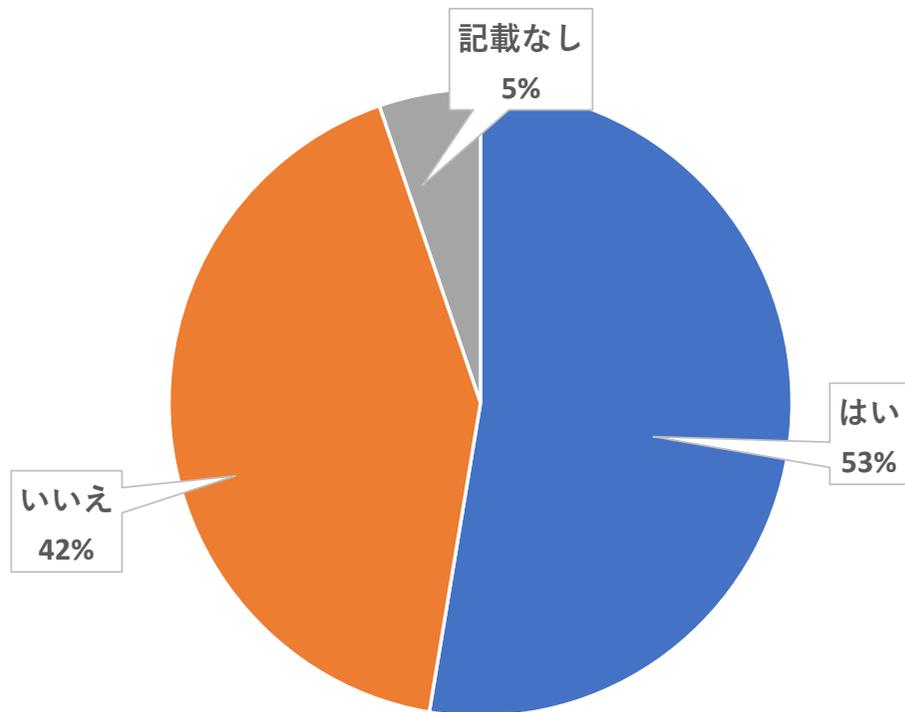
4位：健康上の問題  
(精神的・身体的)  
結婚・出産

5位：看護師以外転職  
業務負担  
人間関係

6位：処遇不満

## 【看護業務について】

Q7. タスクシフト/シェアは進められていますか



## 進められない理由

- ・ 看護補助者が退職により不足  
(看護師の業務が多くなっている)
- ・ 病院の方針が明確になっていない
- ・ 多職種からの協力が得られない
- ・ 他の医療職も人員不足のため
- ・ 業務整理の方向で検討はしているが  
実行できていない。
- ・ 業務改善がスムーズにいかない  
など

# 看護職業務の移管 実践例① \*数施設意見があった内容は集約

職種	移管内容と課題
看護補助者	<ul style="list-style-type: none"><li>・日常生活援助（見守りも含む）・物品管理・書類など事務的業務・面会に関する業務など、業務範囲を徐々に拡大中</li><li>・看護補助者が減少しており、移管できない（介護職員処遇加算により福祉施設への転職が多くなった）</li></ul>
薬剤師	<ul style="list-style-type: none"><li>・持参薬の管理・確認</li><li>・配薬カートへ内服薬のセット、点滴薬の準備</li><li>・病棟の薬品管理</li><li>・化学療法のみキシング（無菌調整室）</li><li>・薬剤師数が少なくて移管できない（調剤や医師処方の確認まで看護師の業務、患者指導ができない）</li></ul>

# 看護職業業務の移管 実践例② \*数施設意見があった内容は集約

職種	移管内容と課題
<p>理学療法士 作業療法士 言語聴覚士等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事介助（PT／OT食事時の体位調整 ST嚥下困難者の介助・見守り等）</li> <li>・ リハビリへの送迎</li> <li>・ リハ前、中、後の更衣、オムツ交換、トイレ誘導、吸引など）</li> <li>・ 回復期病棟 朝食後の歯磨き介助</li> <li>・ 病棟看護業務の応援体制の確立</li> <li>* リハビリ強化→日常生活に必要な機能回復・維持を図ることで看護業務負担軽減へ</li> <li>・ 多忙のため困難 移管していない</li> </ul>
<p>診療放射線 技師 臨床検査技師 臨床工学技師 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検査時の送迎、検査介助</li> <li>・ ME →内視鏡、透析業務の一部移管（バイタル測定含む）</li> <li>・ 外来採血、病棟採血スピッツ準備</li> <li>・ 次検査の患者移動</li> <li>・ 造影剤投与時の留置針確保、造影剤投与、検査後の抜針数施設</li> <li>・ PCR検査時の献体採取</li> <li>・ 臨床工学士→人工呼吸器装着中の吸引、手術時の直接介助</li> <li>・ 多忙のため困難、人員不足</li> </ul>

# 業務改善・見直しでの成果

6事例紹介/34事例中

	内容
1	IT化・スマホ導入による記録や認証作業・電子カルテへの写真添付・バイタル自動入力→時間外短縮
2	看護体制の変更 <ul style="list-style-type: none"><li>・チームナーシングから機能別看護とし、少ない人数で役割を明確にしながら取り組んでいる</li><li>・時間差出勤（9パターン）で患者の動向にあわせている</li><li>・日勤での時間勤務選択制→前残業の減少、朝早い出勤者により、深夜業務負担軽減</li><li>・1人では業務に時間を要すと管理者が判断した場合、合意の下でペアで業務をすることによって定時に業務終了させる（1人で抱え込むスタッフには好評）</li></ul>
3	業務効率化のため施設内インカムを導入→病棟・多職種間の連携が図りやすくなった
4	会議の工夫 意見を事前にPC入力 必要な内容のみ討議する
5	物品の工夫 <ul style="list-style-type: none"><li>・動線、利便性を工夫した配置換え・入院セットに日用品、クッションリースを追加など</li></ul>
6	人材確保に関すること <ul style="list-style-type: none"><li>・定年を65歳に引き上げた。60歳で退職金を全額支給し、65歳まで基本給100%継続、65歳時には60万円の退職金（1万円/月病院の積み立て）</li><li>・看護事務採用 書類関係・窓口対応→看護師の業務負担に繋がっている。</li></ul>

# 現場の声を聴かせください。

看護補助者不足、看護補助者への処遇改善を！

待機児童問題の解決を。

全ての看護師（訪問看護師も含め）が看護職処遇改善手当の対象に！

人手不足解消のために、ICT・AI等活用のための補助金を要請したい。

小児科の診療報酬加算が低すぎる。小児は大人以上に手間がかかる。

新人が都会に。県内に残る人への優遇対策が必要。

看護学校の教員不足

美容系など負担が低く高給料にうつり、このままでは一番、働く世代がいなくなる。

地域医療への対応を。看護師・医師の問題は深刻。

夜勤看護師が少ない。夜勤手当を全国平均並みにしてほしい

紹介・人材派遣会社からの就職が多くを占め人件費が増大

認知症が増加するが認知症認定の研修機関が減っている。

非常に多くのタスクシフト/シェアや業務改善成功事例、現場の声のご意見を頂きました。  
鹿児島県看護連盟ホームページにも掲載いたしますのでぜひご覧ください。  
また看護政策にも繋げていけるよう陳情して参ります。  
ありがとうございました。

